

MYU



Co-creation

宮城大学
研究推進・地域未来共創センター

MIYAGI UNIVERSITY

Center for the Cooperation of Community
Development and Research Promotion

Contributing to the development of our region

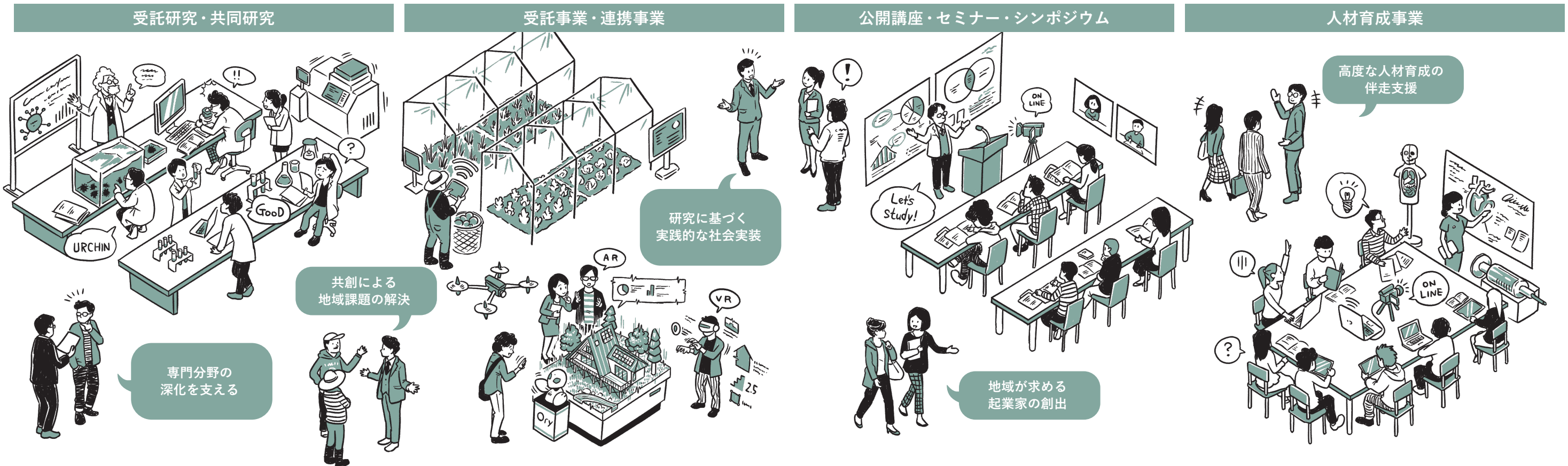
—

Collaborative research & contract projects

Co-creation projects for sustainable society

Open lecture & seminars

「知の拠点」として実践的な教育・研究活動を活かし社会環境の変化に対応した問題解決を目指す



研究を支え、強化し、発信する

研究者が世界規模の社会課題を俯瞰的に捉え、個々の研究分野を探究し、未だ解明していないことを明らかにすることで、新たな社会の礎が構築されます。本学が地域に貢献するためには、基盤となる研究に基づく実践的な社会実装が重要となります。一方、山積する社会課題に対しては、多くのステークホルダーの関わりが必要であり、異分野連携によるイノベーションの創出が必須な時代となっていることから、個々の研究者が対応するには限界があります。そこで、当センターでは個々の研究者が有する専門分野の深化を支え、よりインパクトの強い研究へ高めるための支援を図り、学外へシーズを発信し実用化に向けたプロジェクトへ進展させることで社会実装に貢献します。

研究推進・地域未来共創センターの活動

宮城大学は、「高度な実学主義」を掲げ実践的な教育研究を展開しており、公立大学として地域に貢献することを理念としています。本学においては、研究推進と地域との共創を一元的に推進する組織として研究推進・地域未来共創センターがあり、本学の研究力を強化するため学内の研究環境の整備や研究プロジェクトの企画、学内外との調整、外部資金獲得を支援するとともに、自治体等の地域課題に対して本学の研究シーズをマッチングし、課題解決への展開を支援しています。当センターは、研究力の向上を推進するリサーチ・アドミニストレーター（URA）としての機能強化と、産学連携を推進するコーディネーターにより、学内外においてプロジェクトの企画相談から渉外・調整、プロジェクト支援（研究資金獲得、プロジェクト運営）、知財化・実用化支援を行っています。また、自治体からの依頼に応じて委員・講師を派遣するとともに、専門研修の開催やセンターへの自治体職員の受け入れ等により高度人材の育成を図ります。

地域との共創で豊かな未来社会を

地方においては少子高齢化や若者人材の流出、基幹産業である一次産業の衰退など、持続的な社会基盤の構築が課題となっています。これらの課題をどのように解決するかだけでなく、未来の豊かな社会を構築するために、どのような産業や地域活性化モデルが有用かを、行政のみではなく地域が構想し、持続する仕組みを実現することが重要です。そのため、当センターでは、大学や地域、企業など多様なステークホルダーとの共創プロジェクトを展開し、ともに考え、ともに学び、ともに実現することで、地域課題の解決に貢献します。

地域を担う次世代の人材と産業を育てる

従来の産業構造が変化する中では、働く人の考え方も多様化しており、未来の豊かな社会を構築するためには、新たな事業を創出する「起業家精神（アントレプレナーシップ）」を有する「起業家（アントレプレナー）」の存在が重要です。本学は、地域社会が求める新しいタイプの専門知識を持った人材を育てることを目指しており、アントレ

プレナー養成のカリキュラムを有しています。また、地域の看護人材の確保が課題となっており、本学から地域に定着する看護人材を輩出するとともに、就職後の人材育成にも力をいれております。当センターでは、教育プログラムや講座・研修を通して、高度な人材育成の伴走支援を行います。

研究推進・地域未来共創センター長 メッセージ

東北地方は、美しい自然環境に支えられた豊かな地域産業が育まれてきましたが、東日本大震災により大きな打撃を受けました。震災から10年以上が経過した今、東北の新しい未来を創造する時期が来ています。宮城県は、「新・宮城の将来ビジョン」を策定し、その政策推進に向けた横断的な視点として、「人づくり」「地域づくり」「イノベーション」を踏まえ、10年後の宮城の将来像と、さらにその先、私たちの子や孫の代まで安心して暮らすことができる「持続可能な未来」の実現を目指しています。本学においても、「第3期中期目標」の指針として地域に開かれ、地域と共に発展する使命を果たしながら、研究推進により得た成果を発信する「知の拠点」を目指します。研究推進・地域未来共創センターは、この指針に基づき、宮城大学の横断的な教育・研究を推進するとともに、その成果や知的財産を研究・共創フォーラムの開催により発信し、企業、自治体、学術・研究機関、金融機関、団体等との共同研究や連携プロジェクトを進めます。そして、東北・宮城における様々な地域の資源や人材が連携するプラットフォームを構築することで、カーボンニュートラルなどの社会課題の解決に向けても取り組み、豊かで持続可能な地域社会の実現へと展開します。



研究推進・地域未来共創センター長

風見正三教授

事例紹介

本学の教員が有する研究シーズを活用した各種事業についてご紹介します。

受託研究・共同研究・受託事業・連携事業では、企業や自治体、各種団体等から受けた相談に対し、当センターのコーディネーターが課題の解決に適した本学教員とのマッチングを行い、契約や進捗管理を行います。

受託研究・共同研究

研究シーズを高めるために外部資金を獲得して研究を行います。外部資金には政府系の団体や財団等からの競争的資金と企業から提供を受ける資金があり、大学間や産学官連携等により取り組みます。企業との産学連携では製品・サービスの開発などが、自治体との連携では地域課題の解決に向けた研究開発などがテーマとなります。

クローバーユニ大学発ベンチャー

アカデミア発スタートアップを目指す GAP ファンドにて、ウニによる海藻類の食害（磯焼け）を解決するため、ウニの陸上養殖技術を確立し、周年養殖するシステムを構築するとともに、マメ科植物であるクローバーを給餌することで、食味と機能性に優れたウニとすることに取り組んでいます。



染型紙アーカイブ (DNP 文化振興財団)

伊達家ゆかりの地、大崎市岩出山の旧家に未整理の状態で所蔵されている江戸～明治期の「染型紙」およそ 800 枚を教育研究やデザイン展開に活用できるデジタルアーカイブとして資料化するとともに、地域資源として地域ブランディングへの活用展開に取り組んでいます。



受託事業・連携事業

主に自治体による施策検討やプロジェクトの企画・実施に関する事業を受託し、学内の教員や学生との共創をコーディネートし、地域課題の解決を目指します。連携事業では、主に連携協定を締結している企業・自治体等と連携して、イベントの企画・開催や人材育成の事業を行います。

仙台市消防局とのプロジェクト (学生と連携した防火防災等予防啓発事業)

仙台市消防局からの依頼を受けて、学生による防火防災等の予防啓発に向けた作品の企画・制作および大型商業施設での展示を行い、多くの市民に火災予防の普及啓発と防火防災意識の向上を図る事業に取り組んでいます。プロジェクトの実施にあたり、コーディネーターが学内外のステークホルダーとの調整と運営支援を行っています。



大崎市民ギャラリー展示会企画運営事業

大崎市教育委員会からの依頼を受けて、デジタルメディア作品の制作と大崎市民ギャラリー「織絶の館」での展示会を開催しています。価値創造デザイン学類の授業やゼミ活動等と連動した取り組みとして、展示会の企画から運営までを学生が担い、毎年、学修成果を発表しています。



本学は、看護学群・事業構想学群・食産業学群・基盤教育群の 3 つの学群と 1 つの群から構成されています。毎年それぞれの群から提供された研究シーズを活用し、地域の皆さまに教育や研究の成果を広く公開しています。近年ではオンライン公開講座として本学の研究シーズを通年ウェブ配信するとともに、研究・共創フォーラムを開催し、シーズの発信を行っています。

公開講座・セミナー・シンポジウム

公開講座

研究シーズを発信するオンライン公開講座や、学群ごとの公開講座を開催しています。基盤教育群では、毎年、「学ぼう英語のいろいろ」を開講しています。コロナ禍により令和 2 年度からオンラインにより開催していますが、参加者からは「会場で参加するよりも発音がよく聞ける」「まわりに人が居ないから恥ずかしくなく発音の練習ができる」といったオンラインならではの好評を得ています。



自治体向けセミナー

本セミナーは、多くの自治体が抱える共通の政策課題をテーマとして取り上げ、毎年開催しています。宮城大学が持つ知見や経験、ネットワークを活かして、自治体職員の皆さんが実務に役立つ知識や手法を学ぶとともに、自治体職員同士の交流の機会となることを目的としています。



研究・共創フォーラム

本学の研究シーズや地域との連携事業等の成果を学外に発信し、様々なステークホルダーとの共創の可能性を広げ、更なる地域貢献の機会を創出することを目的としています。令和 4 年度は、ハイフレックス方式による開催としたことで、オンラインを通して地域の自治体や企業・団体等を中心に、全国各地から参加がありました。



人材育成事業

看護人材育成・支援事業

看護職に従事される方の専門研修を毎年複数のテーマで開催しています。「看護研究指導者研修」は、各施設で行っている臨床看護研究を指導する立場にある看護師に対して、指導力の向上を図ることを目的としています。また、「新人看護職員研修新任教育担当者研修」「看護師のためのエンド・オブ・ライフケア研修」「新人訪問看護師育成研修」の各プログラムも開催し、看護人材の育成を支援しています。



シーズ集



「宮城大学シーズ集」は、本学の教員が、どのような研究をしているか、その研究成果が、どのような産学官連携の可能性を有しているかについて、冊子とウェブサイトにより紹介しているものです。本学の教員の情報を「健康・医療・看護」「まちづくり」「デザイン」「食品機能・加工」など、9つの分野に分けて掲載しています。



連携協定

本学と教育・研究・人材交流等で連携する団体等と協定を締結し、共同研究や共創プロジェクトを行います。連携協定を締結することで、新たな研究成果の創出や地域活性化による地域課題の解決、次世代の人材育成に資する本学の人的・知的資源および研究成果等の活用を図ります。

【地方自治体】
宮城県、大崎市、気仙沼市、白石市、南三陸町、仙台市（泉区）、加美町、美里町、大和町、利府町、角田市、栗原市 など

【企業・団体・公的機関等】
兵庫県立大学、株式会社七十七銀行、宮城県議会、JICA 東北、国立研究開発法人水産研究・教育機構、三菱地所株式会社 など



相談手順

1 相談 Consultation

コーディネーターが相談者から相談事項をお聞きします。相談内容の秘匿は厳守します。

2 検討 Examination

相談事項と学内教員等の専門分野とのマッチング性を考慮して、教員等による対応の可能性について検討します。

3 マッチング Matching

コーディネーターが相談者と教員をマッチングし、相談事項への具体的な対応策について、ともに検討します。

4 契約 Contract

具体的な対応策が得られた場合は、共同研究や受託事業などの実施に向けた契約を締結します。契約では、実施内容のほか期間や予算を設定します。

5 実施 Implementation

契約内容に従って、調査や研究を実施します。コーディネーターは関係者間での情報共有や進捗管理を行います。

6 展開 Development

コーディネーターは調査や研究結果の報告にとどまらず、活動の発展へ向けて外部資金の獲得などのフォローアップや必要な支援を行います。

コーディネーター

本学のコーディネーターは、電話やメールなどで頂戴した相談内容について検討し、相談者を本学の教員へとつなぎ、契約から実施に至るまで、幅広く対応します。研究においては、外部資金の獲得に向けて学内外の調整を図り体制を構築するとともに、プロジェクトの運営を支援し、産学連携を推進します。



副センター長/コーディネーター
庄子真樹



コーディネーター
中嶋紀世生



コーディネーター
菅原心也

PLUS ULTRA-

ここから多彩な交流・連携がはじまります

多彩な交流・連携を始める場として設置した大和キャンパス交流棟 2 階の PLUS ULTRA- は、産学官連携に関する新プロジェクトの発表、教員や学生が取り組んでいる新研究分野の発表など、学内外に発信していくオープンな場所として使用します。また、学生から企業・地域住民までのあらゆるステークホルダーに向けて、オープンにゲストを招いた特別講義やイベント、地域住民を交えたワークショップ、企業主催のセミナー、カンファレンス・講座など幅広い用途で使用します。



アクセス

研究推進・地域未来共創センター

大和キャンパス
〒981-3298 宮城県黒川郡大和町学苑 1 番地 1（交流棟 1 階）
Tel 022-377-8319 Fax 022-377-8421

○仙台市地下鉄
南北線「仙台駅」から約 15 分、「泉中央駅」下車。バスに乗り換え

○バス利用
「泉中央駅」バスプール 3 番又は 6 番から、宮城交通バス
「泉パークタウン」行き（宮城大学経由）で約 30 分～35 分、
「宮城大学・仙台保健福祉専門学校前」下車

「仙台駅前」バスプール 2 番から、宮城交通バス「宮城大学」行き約 50 分、
「宮城大学・仙台保健福祉専門学校前」下車

研究推進・地域未来共創センター太白分室

太白キャンパス
〒982-0215 宮城県仙台市太白区旗立二丁目 2 番 1 号

○仙台市地下鉄
南北線「仙台駅」から約 10 分、「長町南駅」下車。バスに乗り換え

○バス利用
「長町南駅・太白区役所前」バスプール 4 番から、宮城交通バス「日本平」行き
又は「仙台南ニュータウン」行きで約 20 分、「宮城大学太白キャンパス前」下車

「仙台駅前」バスプール 7 番から、宮城交通バス「日本平」行き
又は「仙台南ニュータウン」行きで約 40 分、「宮城大学太白キャンパス前」下車





宮城大学
MIYAGI UNIVERSITY



宮城大学 研究推進・地域未来共創センター

発行：2023 年 1 月 発行者：宮城大学 研究推進・地域未来共創センター

TEL: 022-377-8319 FAX: 022-377-8421 E-mail: chiren-office@myu.ac.jp